

普及活動情勢報告（平成29年6月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

温室みかん栽培講習会を開催しました（JA 土佐香美温室みかん部会南部支部）



5月23日、JA 土佐香美温室みかん部会南部支部は現地研修会を開催し、生産者12名が参加しました。

農業改良普及課は、環境制御技術として炭酸ガス施用とヒートポンプの冷却機能の活用について説明しました。炭酸ガス施用では、5月中旬に収穫が終わった実証ほの反収が施用前と比較して約1t増加したことを紹介しました。実証ほの収量は地域の平均反収を上回っており、若手生産者を中心に環境制御への関心が高まりつつあります。

今後は実証データを解析して部会に示し、炭酸ガス施用希望農家の増加を目指します。

JA 南国市でオクラ部会の現地検討会が開催されました



5月26日にJA 南国市オクラ部会では、1回目の現地検討会を開催し、25名が参加しました。現地検討会は、地区ごとに各1ほ場を設定し、3ほ場を見て回りました。

3月中旬から下旬にかけての低温や少雨の影響で発芽揃いが悪く生育が揃いにくい状況にありましたが、訪問した3ほ場とも非常に生育の揃いがよく、よく管理されたほ場でした。しかし、3ほ場とも生育の様相は異なり、園主を含めた参加者間で情報交換がなされていました。農業改良普及課からは、これからの樹勢管理や施肥について助言しました。

今後もJAと協力して、オクラの安定生産に向けて部会の活動を支援していきます。

ニラ栽培講習会を開催しました（JA 土佐香美ニラ部会）



5月29日から6月2日までJA 土佐香美管内の5地区で栽培講習会を開催し、79名の生産者が参加しました。

収量及び販売額の上昇をテーマにJAと振興センターが役割分担し、そぐり機活用事例と導入効果、作型改善、高収量農家の経営分析、環境制御実施ほ場の調査結果、適正経営規模の考え方等について講習しました。

「経営の比較分析や適正規模を把握することは重要」「炭酸ガス施用は効果を感じる」といった意見や、電照・加温に関する質問が出たほか、生産者同士でそぐり機の使用ポイントを教え合う様子も見られ、新しい技術や省力化への関心が高まりました。

農業改良普及課は、JAと共に今後も生産者の所得向上につながる講習会や現地検討会を開催していきます。

～広域連携による観光地周辺の農地を守ろう！！～ 逆川広域集落営農組合設立総会



香美市土佐山田町逆川集落では3つの集落営農組合と4つの中山間直払集落協定があり、それぞれ農地を守る活動を行ってきました。

しかし、高齢化による担い手不足が深刻化する中、広域連携により観光地周辺の農地を守っていくことが必要となってきました。5月24日には「逆川広域集落営農組合」の設立総会が開催され、3組合から選出された総代等11名の出席がありました。

初代組合長からは「皆様からご支援をいただきながら頑張っていきたい」と挨拶があり、市内で最多数(48名)の組合が誕生しました。

今後は水稻の作業受託を行い、規模拡大等による継続した活動が行えるよう関係者と協力して支援していきます。

「全国農業担い手サミット」開催に向けた取り組みを検討～中央東ブロック青年農業士役員会～



6月5日、中央東農業振興センター会議室で青年農業士役員会が開催されました。「全国農業担い手サミット in こうち」での役割確認と取組等について協議がされました。

同サミットでの取り組みは、本年度の重要な活動として位置づけられていることから、農業改良普及課は中央東地域交流会などで展示予定のパネルの構成について助言しました。参加した役員からは、実行委員会から依頼されているアトラクションについても積極的な提案があり、有意義な役員会になりました。

農業改良普及課では、今後もパネル作成等の取り組みを支援していきます。

高温期に向けて青ネギ栽培の技術向上 ～JA 土佐香美洋菜部会～



5月26日から6月12日までJA土佐香美洋菜部会が、青ネギの栽培講習会を5地区で開催しました。農家計49名や農薬メーカーなどが参加し、これからの高温期の病虫害防除や栽培管理について助言しました。

農業改良普及課はこれまでの気象をもとに、排水対策やかん水、高温期の遮光等について説明しました。

参加者からは、今年度はベト病の発生は少ないが、アザミウマの発生が多くこまめな防除が必要といった意見や、どのような遮光資材を使ったら良いかなどの質問も出ました。新規栽培者も参加して先輩農家からのアドバイスもありました。

農業改良普及課では、青ネギ農家の経営安定のため、今後も活動を支援していきます。

水稻の栽培講習会を開催



6月9日に南国市長岡地区で栽培技術講習会が開催され、4名の生産者が参加しました。

農業改良普及課からは、今年度の水稻の生育状況、病虫害防除、刈取後の乾燥などについて説明しました。また、希望者のほ場6筆で出穂期の予測を行いました。

生産者からは、「雑草の見分け方を教えてほしい」、「定植が遅くてもセル苗の方が出穂が早い」などの声が上がりました。

農業改良普及課は、今後も病虫害防除や刈取期などの情報提供を行っていきます。

集出荷場版 GAP の巡回調査を実施しました（JA 土佐香美）



5月25日、JA 土佐香美の集出荷場10か所を対象に、JA 土佐香美園芸部、園芸連、農業改良普及課など合計7名による集出荷場版 GAP の巡回調査を行いました。

農業改良普及課は、照度測定を実施し作業環境に重点を置いて調査しました。調査で判明した作業場の照度不足や鳥の侵入等の問題は、園芸部から各集出荷場の関係者に伝えて改善に繋がります。

農業改良普及課は、今後も GAP の推進を支援していきます。